

青山学院大学アカデミックライティングセンター

2024年度 年次報告書

# 目次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 巻頭言 .....                      | 2  |
| <b>1. 概要</b>                   |    |
| 1-1 開室状況 .....                 | 4  |
| 1-2 活動概要 .....                 | 4  |
| 1-3 運営組織 .....                 | 5  |
| 1-3-1 担当教員                     |    |
| 1-3-2 運営委員会                    |    |
| 1-3-3 実務委員会                    |    |
| 1-3-4 担当職員                     |    |
| 1-3-5 委員会                      |    |
| 1-3-6 予算                       |    |
| <b>2. 活動報告</b>                 |    |
| 2-1 活動報告にあたって .....            | 8  |
| 2-2 各業務の活動 .....               | 9  |
| 2-3 青山活動報告 .....               | 14 |
| 2-4 相模原活動報告 .....              | 18 |
| 2-5 教員の業績リスト .....             | 21 |
| <b>資料</b>                      |    |
| 青山学院大学アカデミックライティングセンター規則 ..... | 23 |

## 巻頭言

「書く」ということは、私たちが日々行う知的営みの中でも、特に高度で困難なものの一つです。自らの内にある漠然とした思考や問いと向き合い、それを吟味し、言葉を選び、論理的に編み上げ、他者に伝わる「かたち」として社会に解き放つ。この一連のプロセスは、単なる技術を超えた、自らの思考そのものを鍛え上げ、深めていく作業にほかなりません。

特に、大学での学びの核心に位置づけられる「アカデミック・ライティング」は、多くの学生が高等学校までに親しんできた学習スタイルと、いくつかの点で大きく異なります。この違いへの戸惑いや誤解が、大学での学術的な探究の第一歩を阻む大きな壁となることも少なくありません。

最大の違いは、「唯一の正解」も「正解に至る決まった方法」も存在しないということです。高等学校までの学習の多くは、教科書に書かれた知識や、問題解決のための定まった道筋・方法を身につけ、それをを用いて正解を導き出す訓練が中心でした。そこで重視された「身につけ方」は、多くの場合「暗記」という手段に支えられています。知識や解法を覚え、それを正確に思い出し、適用する能力が評価されてきました。

この経験から、「勉強とは、既に存在する正解を効率よくインプットし、必要に応じてアウトプットすることだ」というイメージを抱いたまま大学に進学してくる学生は多いのが現状です。

近年、この状況をさらに複雑にし、同時に「書く」ことの本質を鋭く照らし出しているのが、生成 AI の急速な普及です。AI は、問いを投げかければ、驚くほど流暢で「それらしい」文章を瞬時に生成します。これは一見、「書く」という困難な作業を劇的に効率化する福音のように見えます。しかし、その利便性の陰で、私たちは重大な岐路に立たされています。

AI にお題を与え、出力されたテキストをそのまま、あるいは少し手直しして提出する行為は、果たして「書く」ことと呼べるでしょうか。それは、高等学校までの学習で「正解」を教科書や教師に求めていた姿と、構造的に何ら変わらない「思考の外部委託」に過ぎないかもしれません。

大学で求められるレポートや論文の作成は、単に自分の思考や感想を表現することではありません。アカデミック・ライティングのプロセスの重要な要素として、先行研究・文献やデータを深く読み込み、先人たちの築いてきた知や現実世界の事実と「対話」することがあります。それらの知見を批判的に検討し、自らの問いに引きつけ、新たな論理と根拠をもって独自の解釈や見解を構築していく、極めて創造的な作業がアカデミック・ライティングです。

だからこそ、書き始める前の私たちの思考、思い、考えといったものは、決してはっきりとした形をもった明確なものではありません。「書く」という行為は、既に完成している頭の中身を、単に文章という「かたち」に変換する作業ではないのです。むしろ、そうした先行研究との対話やデータとの格闘も含めた、書くというプロセスを通じて、その混沌とした思考の

輪郭を明確にし、磨き上げていくプロセスそのものなのです。

AI がどれほど進化しても、この「自ら問いを立て、文献と格闘し、悩み、思考を明確化していく」プロセスそのものを肩代わりさせることは、自らの知性を育む機会を放棄することに等しいと言えます。技術が「答えらしきもの」を安易に提供してくれる時代だからこそ、私たち人間は、「何を書くのか」「その根拠はどこにあるのか」「その言葉に自分は責任を持てるのか」という、根源的な問いと向き合う「人間としての思考」を、より一層大事にしなければなりません。

もちろん、学術的な文章には、分野ごとに培われてきた「スタイル」や「作法」という制約があります。また、読み手を納得させるための「論理展開」も不可欠です。しかし、そこにも数学の公式のような、当てはめれば誰でも同じ答えにたどりけるような便利な「型」は存在しません。「論理」すらも多様です。学問分野によって論の立て方が異なるだけでなく、同じ分野の中でも、何を問題とし、どのような道筋で自らの主張を構築していくかという論理展開は、書き手の着眼点や思考によって無限の多様性を持ちます。

このように複雑で奥深く、そして今や AI という新たな鏡まで手に入れた「書く」という営みを、学生たちがより良く行うために、決定的に重要な役割を果たすのが「対話」です。

自らの内面で思考を重ねる「内なる対話」や、文献を通じた「先人たちとの対話」はもちろんのこと、他者との「生身の対話」は、自分一人では気づかなかった視点や、思考の偏り、論理の飛躍を可視化してくれます。AI は私たちの論理の矛盾を指摘できても、その背景にある「思い」や「言葉にできない違和感」に寄り添い、共感し、粘り強く思考の伴走者となってくれるわけではありません。

アカデミックライティングセンターは、学生に「正解」や「書き方」を教えたり指導したりする場所ではありません。学生一人ひとりが自らの思考と格闘し、それを言葉にしようと試みるプロセスに寄り添う「対話・相談」の場です。AI が生成したテキストを鵜呑みにするのではなく、自分自身の言葉を見つけ出すための場です。

この対話の場を有効に活用してもらうためには、学生自身が持つ「考える」「学ぶ」ことについての概念を変えていく必要があります。アカデミックライティングセンターが、そうした「学びの変容」—「正解探し」から「問いの探究」へ、そして「AI への依存」から「AI を使いこなす思考」へ—をもたらす触媒となり、ひいては本学における学生たちの勉学や研究を一層深化させるための重要な基盤となることを、心から願っています。

2026 年 3 月

アカデミックライティングセンター

センター長 杉本 卓 (教育人間科学部教授・図書館長)

副センター長 升本 潔 (地球社会共生学部・万代記念図書館長)

# 1. 概要

## 1-1 開室状況

|       |   |
|-------|---|
| 創設    | 2017年10月1日(日)   |
| 開室    | 青山キャンパス 2017年11月20日(月)<br>相模原キャンパス 2018年4月24日(火)  |
| 略称    | AWC(英語名称 Academic Writing Center の略)  |
| スタッフ  | 青山キャンパス 助教及びチューター<br>相模原キャンパス 助教及びチューター<br>※チューターとは学術的文章執筆と支援方法の専門研修受講後の本学大学院生のこと   |
| 対象学生  | 青山学院大学の正規課程に在籍する学部生および大学院生  |
| 支援対象  | 日本語および英語の学術的文章  |
| 支援時間  | 1回につき45分間(昼休みセッション③の予約枠のみ30分間)  |
| 利用料金  | 無料  |
| 今年度開室 | 青山キャンパス, 相模原キャンパス<br>前期 2024年4月15日(月)~2024年7月31日(水)<br>後期 2024年9月23日(月)~2025年1月31日(金)   |
| 開室日時  | 授業実施期間中の月曜日~金曜日 11時~18時   |
| セッション | ①11:00~11:45 ②11:45~12:30 ③12:40~13:10 ④13:20~14:05<br>⑤14:05~14:50 ⑥15:05~15:50 ⑦15:50~16:35 ⑧16:50~17:35<br>※2024年度の相模原キャンパスでのセッション運営は、月・金オンライン対応、火~木対面对応とした。 |
| 予約方法  | 青山学院大学 AWC の Web サイトから予約または来室にて予約   |

## 1-2 活動概要(文責:綿貫ゆり)

2024年度の活動は(1)セッション運営、(2)広報活動、(3)行事、(4)システム改修、(5)紀要を中心として行った。

まずAWCの根幹を成す(1)セッション(個別支援)については、形式は対面・オンラインを選択可能な形とし、予約システム利用・飛び込み利用を問わず、柔軟に提供を行った。

(2)については、24年度よりリプレイスされたAWCウェブサイトのみならず、例年行なっている学生ポータル、デジタルサイネージ、A型看板・学内掲示板等による学生への広報を展開した。その際、時期ごとの学生のニーズを踏まえ、定期的に異なるデザインにて周知を行なった。また、学内各所へ『利用案内』の設置を継続した。

(3)行事としては、ライティングセンターの利用を促す目的で、年度初頭をはじめとする

利用ガイダンスを実施した。さらに、後期より Course Power 上にてアカデミックライティングセミナー（全8回）の動画を再公開した。

（4）システム改修については、前年度までの富士通 Japan との協議を経て新設された AWC ウェブサイト・予約システムのリリース後の各種トラブルへの対応、不具合の調整に従事した。（5）としては、AWC 紀要『ライティング研究』第4号を刊行した。

### 1-3 運営組織

#### 1-3-1 担当教員

|         |                |
|---------|----------------|
| センター長   | 伊達 直之（図書館長）    |
| 副センター長  | 升本 潔（万代記念図書館長） |
| 助教（青山）  | 小林 至道          |
| 助教（青山）  | 綿貫 ゆり          |
| 助教（相模原） | 嶼田 大海          |

#### 1-3-2 運営委員会

(1) センター長

伊達 直之                      図書館長・文学部教授

(2) 副センター長

升本 潔                        万代記念図書館長・地球社会共生学部教授

(3) コーディネーター

森 幸穂                        理工学部准教授

黒岩 裕                        コミュニティ人間科学部教授

(4) センター助教又はセンター助手の中からセンター長が指名する者

小林 至道                      アカデミックライティングセンター助教

嶼田 大海                      アカデミックライティングセンター助教

綿貫 ゆり                      アカデミックライティングセンター助教

(5) 本学教職員の中からセンター長が指名する者

THOMPSON, Colin J.        文学部准教授

ROBERTSON, C. E.         理工学部准教授

宮澤 淳一                      総合文化政策学部教授

菊池 尚代                      地球社会共生学部教授

澤井 利恵子                  学術情報部図書課長

(6) 学術情報部長  
五十嵐 遣

(2025.3.31 現在)

### 1-3-3 実務委員会

(1) センター長

伊達 直之 図書館長・文学部教授

(2) 副センター長

升本 潔 万代記念図書館長・地球社会共生学部教授

(3) コーディネーター

森 幸穂 理工学部准教授

黒岩 裕 コミュニティ人間科学部教授

(4) センター助教又はセンター助手の中からセンター長が指名する者

小林 至道 アカデミックライティングセンター助教

嶼田 大海 アカデミックライティングセンター助教

綿貫 ゆり アカデミックライティングセンター助教

(5) 学術情報部図書課長

澤井 利恵子 学術情報部図書課長

(6) 相模原事務部学術情報課長

鈴木 一巳 相模原事務部学術情報課図書課長（～2024.5.31）

田島 由香 相模原事務部学術情報課図書課長（2024.6.1～）

(7) 本学の職員の中からセンター長が指名する者

田島 由香 相模原学術情報課図書担当課長（～2024.5.31）

(2025.3.31 現在)

### 1-3-4 担当職員

(青山)

五十嵐 遣 学術情報部長

市川 昭裕 学術情報部図書担当課長（～2025.2.16）

澤井 利恵子 学術情報部図書課長

西村 香 学術情報部図書課

佐藤 裕 学術情報部図書課（委託職員）

(相模原)

鈴木 一巳 相模原事務部学術情報課長（～2024.5.31）

田島 由香 相模原事務部学術情報課長（2024.6.1～）

遠藤 真名美 相模原事務部学術情報課 (2024.6.1～)  
 岡田 里和 相模原事務部学術情報課

(2025.3.31 現在)

### 1-3-5 委員会

#### (1) 運営委員会

|                      |          |         |
|----------------------|----------|---------|
| 2024年5月21日(火)～27日(月) | 第1回運営委員会 | メール会議   |
| 7月31日(水)             | 第2回運営委員会 | オンライン会議 |
| 10月9日(水)             | 第3回運営委員会 | オンライン会議 |
| 11月11日(月)～15日(金)     | 第4回運営委員会 | メール会議   |
| 2025年2月6日(木)～12日(水)  | 第5回運営委員会 | メール会議   |
| 3月14日(金)             | 第6回運営委員会 | オンライン会議 |

#### (2) 実務委員会

|               |          |         |
|---------------|----------|---------|
| 2024年7月31日(水) | 第1回実務委員会 | メール会議   |
| 12月23日(金)     | 第2回実務委員会 | オンライン会議 |
| 2025年3月14日(火) | 第3回実務委員会 | オンライン会議 |

### 1-3-6 予算

2024年度予算については、経常予算として申請し承認された。

予算額および執行額については以下の通りである。

単位：円

| 内容      | 予算額        | 執行額        |
|---------|------------|------------|
| チューター費用 | 6,685,600  | 6,685,600  |
| 業務委託費   | 7,898,000  | 7,898,000  |
| 研究経費    | 456,000    | 456,000    |
| 運営経費    | 1,180,000  | 1,180,000  |
| 計       | 16,219,600 | 16,219,600 |

(2025.3.31 現在)

## 2. 活動報告

### 2-1 活動報告にあたって

アカデミックライティングセンター（AWC）では、学生の学術的な文章（レポート・論文等）の執筆のサポートを、本学大学院生であるチューターが中心となって行っている。チューターによる学生の支援（セッション）やチューターに対する研修などは、青山キャンパスと相模原キャンパスそれぞれで行っているが、セッションや研修内容などはキャンパスによらず標準化をはかっており、相談受け付けなどのシステムも共通のものを使っている。

AWCの活動は、大学院生（チューター）による学生支援やチューターへの研修などの「セッション・研修」、AWCの予約システムやWebサイトの構築・運用を行う「システム」、AWC利用者などへの広報及びAWCの紀要『ライティング研究』の出版などを含む「出版・広報」、年度初頭のオリエンテーションやAWCセミナーの計画・実施及び諸経費の管理・各種事務手続きなどの「行事・庶務」から成っている。これらの活動のうち、学生への直接的なサポートはチューターが行っているが、セッションの運営などそれ以外の活動は、AWCに所属する助教の教員たちが中心となり、職員・スタッフとともに担当している。なお、紀要については編集委員会を設け、委員長をAWC運営委員会委員の宮澤淳一先生（総合文化政策学部）にお願いしている。

以下では、セッション・研修、システム、出版・広報、行事・庶務という業務ごとに、今年度の活動について報告をする（2-2）。ただし、セッション・研修については、キャンパスごとの活動報告のなかであわせて扱っている（2-3, 2-4）。つづけて、助教の教員たちによる今年度の研究業績をリストアップしている（2-5）。また、資料としてAWCの規則を掲載している（3）。

## 2-2 各業務の活動

### 2-2-1 システム関連報告（文責：嶼田大海）

#### 1. AWC 新規予約システムの運用について

2024年度までの予約システムの構築を受けて、2024年3月28日より新しい予約システムの運用を開始した。従来の予約システムを踏襲し、学生ロール・チューターロール・運営管理者ロールの三つが連動して機能する仕様となっている。

新システム移行に伴い、一部利便性の向上が実現した一方で、運用開始後にシステムに複数の不具合が見られた。そのため、開発業者と継続的に課題点を共有しつつ、システムの改修を行うこととなった。当初は個別対応が中心であったが、年度途中には大小含め検討課題が蓄積したことから、改修に関わる定例会を設置して、システムの現状や改修進捗を定期的に確認する体制が取られた。これにより、課題の優先度付けや進捗の可視化が進み、一定の改善が図られた。

しかしながら、年度内には対応が間に合わなかった機能や課題点も残されており、翌年度においても、引き続き協議しつつ改修を進めることとなった。特に、学生が予約を行なった際に、他ロール（チューターおよび運営管理者）への通知が不安定となる不具合は、日々の運営トラブルに直結するため、優先度の高い改修項目の一つである。この点を含め、利用者の利便性、および運営の安定性を両立させるための整備を進める方針である。

## 2-2-2 広報関連（文責：小林至道）

### (1) 新 AWC ウェブサイトにおける新機能の活用

システムリプレイスに伴い、2024 年度から AWC ウェブサイトがリニューアルされた。お知らせ記事による広報展開など、前ウェブサイトから踏襲する機能に加えて、新しい機能の一つである「Close-Up」機能（図 1 参照）を活用して、スライドや写真による広報活動を展開した。

図 1 AWC ウェブサイト「Close-Up」機能



### (2) AWC オリジナルグッズの作成

2025 年度以降の AWC 利用者ならびに年度初頭オリエンテーション参加者への配布用として、不織布バックを作成した。デザインは AWC 教員間で協議のうえ作成し、(株)文祥堂に製作を依頼した。

図 2 不織布バッグのデザイン



### (3) 「AWC 利用案内 (2025 年度版)」の作成

全体の構成および内容は前年度版をほぼ踏襲し、必要な加筆修正をした上で、製作は(株)パットンファイヴに依頼した。

図3 AWC 利用案内 (2025 年度版) の表紙



### 2-2-3 紀要関連 (文責: 小林至道)

紀要『ライティング研究』第4号(紀要委員長: 宮澤淳一 総合文化政策学部教授)には、論文1本、実践報告2本、研究ノート1本、書評1本の計5本が、いずれも学内外の査読者による審査を経て掲載された。同紀要は2025年3月に刊行され、AWCウェブサイト内「研究と活動実績」ページ、「センター紀要『ライティング研究第4号』」から、ダウンロードすることができる。

図4 『ライティング研究』第4号の目次

| 目 次  |   |
|--|---|
| 巻頭言  | 1   |
| 【査読を経た投稿】  |   |
| 論文   |   |
| A Taxonomy for Rhetorical Assessment Based on Coherence Breaks in the Paragraph Writing of Learners of English as a Foreign Language | Kana Matsumura (松村 香奈) ..... 3                      |
| 実践報告   |   |
| An Analysis of the Effect of Student-Teacher Interactive Written Dialogue on Autonomous Learning in a Media Production Studies Class | Asami Tomimaga & Norio Hozaki (富永 麻美 保崎 剛雄) .....21 |
| 計量テキスト分析を用いたライティングセンター利用者の悩みの可視化と体系的把握 個別支援における工夫の考察   | 嶋田 大海 小林 至道 中竹 真依子 .....39                          |
| 研究ノート  |   |
| 作文学習におけるピアレビュー活動の研究動向 実践的および社会文化的側面に着目して   | 宮本 (土屋) 摩子 .....51                                  |
| 書評   |   |
| 英エコノミスト誌の書き手がまとめた便覧を読む   | 内田 有紀 .....63                                       |

## 2-2-4 行事関連（文責：小林至道）

### (1)年度初頭オリエンテーションの実施

2024年度年度初頭オリエンテーションとして、表1の通り、イベントを実施した。

表1 年度初頭オリエンテーション

| 実施日   | イベント名           | 実施対象者                             | 実施者 |
|-------|-----------------|-----------------------------------|-----|
| 4月9日  | AWCオリエンテーション    | 青山キャンパスの全学生                       | 嶋田  |
| 4月9日  | 相模原AWCガイダンス（動画） | 社会情報学部<br>社会情報ナビゲーション<br>社会情報体験演習 | 嶋田  |
| 4月11日 | AWCオリエンテーション    | 相模原キャンパスの全学生                      | 嶋田  |
| 4月10日 | レポート・論文の書き方セミナー | 青山キャンパスの全学生                       | 綿貫  |
| 4月12日 | レポート・論文の書き方セミナー | 相模原キャンパスの全学生                      | 綿貫  |
| 5月9日  | 相模原AWCガイダンス（動画） | コミュニティ人間科学部<br>基礎演習 I             | 嶋田  |
| 5月14日 |                 |                                   |     |

### (2)卒論準備セミナーの実施

卒業論文執筆・提出予定者を対象に、表2の通り、イベントを実施した。

表2 卒論準備セミナー

| 実施日   | イベント名    | 実施対象者                        | 実施者 |
|-------|----------|------------------------------|-----|
| 6月13日 |          | コミュニティ人間科学部<br>卒業研究 I（秋富創ゼミ） | 綿貫  |
| 7月2日  | 卒論準備セミナー | 青山キャンパスの4年生                  | 綿貫  |
| 7月4日  |          | 相模原キャンパスの4年生                 | 綿貫  |

### (3)アカデミックライティングセミナー動画の配信

両キャンパスの学生（学部生、大学院生）を対象とし、アカデミックライティングセミ

ナー動画（全8回）を、後期の10月から3月にかけて、表3の通り、Course Power 上で提供した。

表3

アカデミックライティングセミナーのプログラム

| セミナータイトル |                           |
|----------|---------------------------|
| 第1回      | アカデミックなレポート・論文とは何か？       |
| 第2回      | レポート・論文を書くための資料の探し方・読み方   |
| 第3回      | 本文への引用・参考文献一覧の書き方のルール     |
| 第4回      | 要点のまとめ方（ブックレポート・礼拝レポート対策） |
| 第5回      | 英語アカデミックライティングの基本         |
| 第6回      | 論文を書くための基本                |
| 理系向け①    | 実験ノートの書き方                 |
| 理系向け②    | 理系文章における文中・文末の参考文献の書き方    |

#### (4)出張講義の実施

学部専任教員からの依頼を受け、表4の通り、イベントを実施した。

表4 出張セミナー

| 実施日    | イベント名           | 実施対象者                   | 実施者 |
|--------|-----------------|-------------------------|-----|
| 10月23日 | アカデミックな論文の書き方   | 文化演習ⅠB<br>(川又啓子ゼミの3年生)  | 小林  |
| 11月19日 | アカデミックなレポートの書き方 | 文化基礎演習B<br>(川又啓子ゼミの2年生) | 小林  |

## 2-3 青山活動報告（文責：綿貫ゆり）

### 2-3-1 チューター体制

日本語セッション担当者：前期：14名 後期：12名

日英両セッション担当者：後期：3名 後期：4名

### 2-3-2 チューター研修

<前期 対象チューター：6名>

#### 研修1 オリエンテーション

実施日：4月24日／4月26日／5月10日（綿貫）

#### 研修2 録音セッション聴講（文字起こし資料参照）・セッション見学・資料読み込み

実施日：4月25日／4月29日（嶼田）

5月1日／5月7日／5月17日（綿貫）

#### 研修3 録音セッション聴講（文字起こし資料参照）・セッション見学・資料読み込み

実施日：5月1日／5月8日／5月14日／5月21日（綿貫）

6月24日（嶼田）

#### 研修4 模擬セッション

実施日：5月13日／5月16日／5月17日／5月20日／5月24日（嶼田）

### 2-3-3 2024年度の利用実績

集計期間：4月15日（月）～1月31日（金）

相談形式：対面およびオンライン

|             | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 合計    |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 開室日数（日）     | 12    | 21    | 20    | 23    | 6     | 23    | 19    | 16    | 18    | 158   |
| 受入枠数（枠）     | 125   | 212   | 261   | 261   | 81    | 306   | 272   | 218   | 244   | 1980  |
| 利用件数（枠）     | 29    | 65    | 83    | 160   | 32    | 52    | 54    | 93    | 141   | 709   |
| 内オンライン相談（件） | 5     | 9     | 17    | 19    | 5     | 8     | 17    | 9     | 28    | 117   |
| 稼働率         | 23.2% | 30.7% | 31.8% | 61.3% | 39.5% | 17.0% | 19.9% | 42.7% | 57.8% | 35.8% |

#### (1) 学科・研究科別利用件数

| 学部・学科・研究科 | 前期 | 後期 | 合計  |
|-----------|----|----|-----|
| 文 英米文学科   | 24 | 29 | 53  |
| フランス文学科   | 9  | 2  | 11  |
| 日本文学科     | 32 | 32 | 64  |
| 史学科       | 14 | 17 | 31  |
|           |    |    | 174 |

|        |               |     |     |    |     |
|--------|---------------|-----|-----|----|-----|
|        | 比較芸術学科        | 2   | 3   | 5  |     |
|        | 文学部交換留学生      | 9   | 1   | 10 |     |
| 経済     | 経済学科          | 10  | 10  | 20 | 22  |
|        | 現代経済デザイン学科    | 0   | 2   | 2  |     |
| 法学     | 法学科           | 46  | 24  | 70 | 116 |
|        | ヒューマンライツ学科    | 34  | 12  | 46 |     |
| 経営     | 経営学科          | 6   | 17  | 23 | 33  |
|        | マーケティング学科     | 2   | 8   | 10 |     |
| 国際政治経済 | 国際政治学科        | 11  | 39  | 50 | 70  |
|        | 国際経済学科        | 2   | 7   | 9  |     |
|        | 国際コミュニケーション学科 | 4   | 6   | 10 |     |
|        | 国際政治経済学部交換留学生 | 0   | 1   | 1  |     |
| 総合文化政策 | 総合文化政策学科      | 28  | 62  |    | 90  |
| 教育人間科学 | 教育学科          | 30  | 35  | 65 | 118 |
|        | 心理学科          | 37  | 16  | 53 |     |
|        | 相模原キャンパス所属の学部 | 22  | 19  |    | 41  |
| 大学院    | 博士前期・修士       | 15  | 29  | 44 | 45  |
|        | 博士後期          | 0   | 1   | 1  |     |
| 合計     |               | 337 | 372 |    | 709 |

## (2) 学年別利用件数

| 学年       | 前期  | 後期  | 合計  |
|----------|-----|-----|-----|
| 1年生      | 125 | 56  | 181 |
| 2年生      | 73  | 122 | 195 |
| 3年生      | 56  | 64  | 120 |
| 4年生      | 53  | 115 | 168 |
| M1       | 8   | 9   | 17  |
| M2       | 21  | 5   | 26  |
| D1・3・一貫制 | 1   | 1   | 2   |
| 合計       | 337 | 372 | 709 |

### (3) 相談文章

| 相談文章の種類                 | 前期  | 後期  | 合計  | 割合    |
|-------------------------|-----|-----|-----|-------|
| 授業でのレポート・ライティング課題（日本語）  | 221 | 165 | 386 | 54.4% |
| 授業でのレポート・ライティング課題（英語）   | 21  | 8   | 29  | 4.0%  |
| 授業での発表資料（レジュメ・PPT）（日本語） | 9   | 3   | 12  | 1.7%  |
| 授業での発表資料（レジュメ・PPT）（英語）  | 2   | 0   | 2   | 0.3%  |
| 修士論文（日本語）               | 3   | 16  | 19  | 2.7%  |
| 修士論文（英語）                | 0   | 3   | 3   | 0.4%  |
| 卒業論文（日本語）               | 13  | 55  | 68  | 9.6%  |
| 卒業論文（英語）                | 1   | 6   | 7   | 1.0%  |
| 大学院入試（願書・研究計画）関連（日本語）   | 10  | 7   | 17  | 2.4%  |
| 大学院入試（願書・研究計画）関連（英語）    | 9   | 11  | 20  | 2.8%  |
| 留学（願書・研究計画）関連（日本語）      | 12  | 8   | 20  | 2.8%  |
| 留学（願書・研究計画）関連（英語）       | 5   | 2   | 7   | 1.0%  |
| その他・空欄（日本語）             | 30  | 86  | 116 | 16.4% |
| その他・空欄（英語）              | 1   | 2   | 3   | 0.4%  |
| 合計                      |     |     | 709 | 100%  |

### (4) 言語別利用件数

| 言語  | 前期  | 後期  | 合計  |
|-----|-----|-----|-----|
| 日本語 | 313 | 346 | 659 |
| 英語  | 24  | 26  | 50  |

### (5) 利用動機

| 最も相談したい点（複数回答可・任意回答）  | 前期  | 後期  | 合計  | 割合    |
|-----------------------|-----|-----|-----|-------|
| 授業・研究室・ゼミ担当教員からの指示・紹介 | 41  | 63  | 104 | 13.5% |
| ライティングスキルアップのため自主的に   | 155 | 98  | 253 | 32.8% |
| 以前利用して良かったので          | 139 | 165 | 304 | 39.4% |
| 学内のチラシ・掲示板を見て         | 30  | 20  | 50  | 6.5%  |
| 友人から聞いて               | 15  | 10  | 25  | 3.3%  |
| AWC のガイダンス、公開セミナーを受けて | 4   | 7   | 11  | 1.4%  |
| AWC や図書館などのホームページを見て  | 9   | 9   | 18  | 2.3%  |
| 図書館カウンターからの案内で        | 3   | 3   | 6   | 0.8%  |
| 合計                    | 396 | 375 | 771 | 100%  |

(6) 最も相談したい点

| 最も相談したい点 (任意回答)    | 前期  | 後期  | 合計  | 割合    |
|--------------------|-----|-----|-----|-------|
| 文章の構成・展開           | 146 | 157 | 303 | 43.1% |
| 文章表現・文法・語法         | 15  | 21  | 36  | 5.1%  |
| テーマ決め              | 38  | 35  | 73  | 10.4% |
| 本文引用の方法・参考文献一覧の書き方 | 23  | 26  | 49  | 7.0%  |
| 課題のテーマ・条件に沿っているか   | 52  | 6   | 10  | 1.4%  |
| 情報検索の方法            | 4   | 46  | 98  | 14.0% |
| 図表の作成・確認           | 1   | 6   | 7   | 1.0%  |
| 提出前の推敲             | 56  | 70  | 126 | 18.0% |
| 合計                 |     |     | 702 | 100%  |

## 2-4 相模原活動報告（文責：嶋田大海）

### 2-4-1 チューター体制

日本語セッション担当者：前期：6名 後期：11名

日英両セッション担当者：前期：3名 後期：4名

### 2-4-2 チューター研修

〈前期 研修なし〉

〈後期 対象チューター：6名〉

チューターを2～3名を組にして、以下の内容で研修を実施した（各回120分）。

第1回：AWC オリエンテーション [10/2, 10/3]

AWCの概要、AWCの勤務方法（システム操作含む）、ライティング・スキルの基礎

第2回：ライティング支援の基礎 [10/8, 10/9, 10/10]

ライティング支援（全般）のポイント、文章診断、模擬セッションとフィードバック

第3回：構想段階の相談への対応 [10/15, 10/16, 10/17]

文章が無い場合のポイント、模擬セッションとフィードバック

第4回：長い文章（論文）の相談への対応 [10/22, 10/23, 10/24]

相談文章が長い場合のポイント、文章診断、模擬セッションとフィードバック

英語研修：英語文章の相談への対応 ※英語担当チューターのみ [10/30]

英文を扱う場合のポイント、文章診断、模擬セッションとフィードバック

補講回：専門が遠い相談への対応

専門が遠い場合のポイント、文章診断、模擬セッションとフィードバック

※第4回終了後、各チューターについて教員が必要性を協議

### 2-4-3 2024年度の利用実績

集計期間：2023年4月15日（月）～2024年1月31日（金）

相談形式：火曜・水曜・木曜\* 対面およびオンライン

\*助教がローテーションで火曜・水曜・木曜日に勤務

月曜・金曜 オンラインのみ\*\*

\*\*相模原所属学生はオンラインで青山 AWC のチューターと繋がる

|             | [前期]  |       |       |       | [後期] |      |      |       | 合計    |       |
|-------------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|
|             | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 9月   | 10月  | 11月  | 12月   |       | 1月    |
| 開室日数（日）     | 12    | 21    | 20    | 14    | 6    | 24   | 19   | 16    | 18    | 150   |
| 受入枠数*（枠）    | 48    | 120   | 91    | 106   | 23   | 114  | 118  | 101   | 139   | 860   |
| 利用件数**（件）   | 14    | 41    | 18    | 51    | 2    | 11   | 8    | 13    | 24    | 182   |
| 内オンライン相談（件） | 1     | 4     | 3     | 16    | 1    | 2    | 2    | 1     | 13    | 43    |
| 稼働率         | 29.2% | 34.2% | 19.8% | 48.1% | 8.7% | 9.6% | 6.8% | 12.9% | 17.3% | 21.2% |

### 2-4-4 学科・研究科別利用件数

| 学部・学科・研究科 |                  | 前期 | 後期  | 合計 |    |
|-----------|------------------|----|-----|----|----|
| 大学        | 工学部              |    |     |    |    |
|           | 化学・生命科学科         | 8  | 2   | 10 |    |
|           | 電気電子工学科          | 6  | 2   | 8  |    |
|           | 機械創造工学科          | 4  | 0   | 4  |    |
|           | 経営システム工学科        | 2  | 0   | 2  | 44 |
|           | 情報テクノロジー学科       | 6  | 0   | 6  |    |
|           | 物理科学科            | 9  | 1   | 10 |    |
|           | 数理サイエンス学科        | 4  | 0   | 4  |    |
| 大学院       | 社会情報学科           | 17 | 11  | 28 |    |
|           | 地球社会共生学科         | 28 | 13  | 41 |    |
|           | コミュニティ人間科学科      | 30 | 16  | 46 |    |
|           | 青山キャンパス所属の学部*    | 9  | 10  | 19 |    |
|           | 博士前期・修士 理工学 専攻   | 1  | 2   | 3  |    |
|           | 博士後期・一貫制博士 理工学専攻 | 0  | 0   | 0  |    |
|           | 博士前期・修士 社会情報学 専攻 | 0  | 1   | 1  |    |
|           | 青山キャンパス所属の大学院**  | 0  | 1   | 1  |    |
| 合計        | 124              | 58 | 182 |    |    |

\* 文学部、教育人間科学部、国際政治経済学部、法学部、経済学部、経営学部

\*\* 総合文化政策学研究科

## 2-4-5 学年別利用件数

| 学年  | 前期  | 後期 | 合計  |
|-----|-----|----|-----|
| 1年生 | 84  | 25 | 105 |
| 2年生 | 19  | 11 | 30  |
| 3年生 | 10  | 7  | 17  |
| 4年生 | 15  | 12 | 27  |
| M1  | 0   | 3  | 3   |
| M2  | 0   | 0  | 0   |
| D1  | 0   | 0  | 0   |
| 合計  | 128 | 58 | 182 |

## 2-4-6 相談文書

| 相談文章の種類 (複数回答可) | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 合計  | 割合    |
|-----------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|-------|
| レポート            | 10 | 25 | 12 | 40 | 0  | 5   | 4   | 6   | 15 | 117 | 64.3% |
| 論文              | 1  | 2  | 2  | 5  | 0  | 1   | 4   | 5   | 6  | 26  | 14.3% |
| 発表資料            | 0  | 2  | 4  | 4  | 0  | 4   | 0   | 2   | 0  | 16  | 8.8%  |
| その他*            | 3  | 12 | 0  | 2  | 2  | 1   | 0   | 0   | 3  | 23  | 12.6% |
| 合計              | 14 | 41 | 18 | 51 | 2  | 11  | 8   | 13  | 24 | 182 | 100%  |

\*その他の内訳：留学、ゼミの志望理由書

## 2-4-7 言語別利用件数

| 言語  | 前期  | 後期 | 合計  |
|-----|-----|----|-----|
| 日本語 | 104 | 50 | 154 |
| 英語  | 20  | 8  | 28  |

## 2-4-8 利用動機

| 利用動機 (複数回答可・任意回答)     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 合計  | 割合    |
|-----------------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|-------|
| 授業・研究室・ゼミ担当教員からの指示・紹介 | 10 | 4  | 2  | 1  | 0  | 2   | 0   | 2   | 5  | 26  | 11.9% |
| ライティングスキルアップのため自主的に   | 9  | 8  | 16 | 6  | 0  | 0   | 1   | 0   | 1  | 41  | 18.7% |
| 以前利用して良かったので          | 3  | 17 | 21 | 26 | 0  | 2   | 2   | 5   | 5  | 81  | 37.0% |
| 学内のチラシ・掲示板を見て         | 9  | 6  | 3  | 5  | 0  | 0   | 2   | 0   | 1  | 26  | 11.9% |
| 友人から聞いて               | 0  | 5  | 1  | 4  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0  | 10  | 4.6%  |
| AWCのガイダンス、公開セミナーを受けて  | 5  | 0  | 4  | 4  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0  | 13  | 5.9%  |
| AWCや図書館などのホームページを見て   | 1  | 5  | 3  | 4  | 0  | 1   | 0   | 0   | 0  | 14  | 6.4%  |
| 図書館カウンターからの案内で        | 0  | 2  | 1  | 1  | 0  | 1   | 0   | 2   | 1  | 8   | 3.7%  |
| 合計                    | 37 | 47 | 51 | 51 | 0  | 6   | 5   | 9   | 13 | 219 | 100%  |

## 2-5 教員の業績リスト

### 1. 小林至道

#### (1) 論文（査読付き）

中竹真依子・嶋田大海・小林至道「ライティング・センターの利用を通じた英文の質的变化：継続的利用者に見る書き手の成長」『大学英語教育学会（JACET）2024年度 関東支部紀要』第12号, 45-65, 2025年3月.

嶋田大海・小林至道・中竹真依子「計量テキスト分析を用いたライティングセンター利用者の悩みの可視化と体系的把握：個別支援における工夫の考察」『ライティング研究 青山学院大学アカデミックライティングセンター紀要』第4号, 39-50, 2025年3月.

#### (2) 共同研究・競争的資金等の研究課題

AOYAMA VISION（研究代表：稲積宏誠）「全学的な教育基盤の確立と共通教育カリキュラムの再構築」

### 2. 嶋田大海

#### (1) 書籍

佐渡島紗織・宇都伸之・中島宏治・後藤大輔・坂本麻裕子・嶋田大海・外村江里奈・千仙永・平松友紀・渡寛法（2025）『レポート・論文をさらによくする「観点ガイド」——学習と授業作りに役立つ25の観点——』大修館書店.

#### (2) 論文（査読付き）

嶋田大海・小林至道・中竹真依子（2024）「計量テキスト分析を用いたライティングセンター利用者の悩みの可視化と体系的把握——個別支援における工夫の考察——」『ライティング研究』第4号, 39-50.

中竹真依子・嶋田大海・小林至道（2024）「ライティング・センターの利用を通じた英文の質的变化——継続的利用者に見る書き手の成長——」『JACET 関東支部紀要』第12号, 45-65.

#### (3) 学会発表要旨

嶋田大海（2025）「大学初年次生の論証方レポートにおける文献活用」『専門日本語教育学会研究討論会誌』、第27号, 9-10.

#### (4) 競争的資金等の研究課題

科学研究費助成事業〈研究代表〉「学術的文章作成における大学生の意見構築」

### 3.綿貫ゆり

#### (1) 講演

綿貫ゆり「レポート・論文の書き方」2024年4月10日、於：青山キャンパス

綿貫ゆり「レポート・論文の書き方」2024年4月12日、於：相模原キャンパス

綿貫ゆり「卒論準備セミナー」2024年7月2日、於：青山キャンパス（相模原キャンパスにてサテライト視聴）

綿貫ゆり「卒論準備セミナー」2024年7月4日、於：相模原キャンパス（青山キャンパスにてサテライト視聴）

#### (2) 教育活動

千葉大学、「社会思想史I」（前期）

千葉大学、「社会思想史II」（後期）

「卒論セミナー」2024年6月13日、コミュニティ人間学部・秋富創先生の演習

○青山学院大学アカデミックライティングセンター規則

(2017年5月25日理事会承認)

改正 2018年6月18日 2019年3月28日

2021年1月28日

(趣旨)

第1条 この規則は、青山学院大学(以下「本学」という。)の図書館にアカデミックライティングセンター(以下「センター」という。)を置き、その事業、組織、運営等について必要な事項を定めるものとする。

(センターの目的)

第2条 センターは、アカデミックライティングに係る指導及び教育(以下「アカデミックライティング教育」という。)を実施することにより、学生のコミュニケーション能力、論理的思考力及び日本語、英語その他の言語によるアカデミックライティング能力の育成及び向上を支援し、アカデミックマナー及びアカデミックリテラシーを有する学生の育成に資することを目的とする。

(センターの事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) センターの目的を達成するための調査及び情報収集並びに企画立案
- (2) アカデミックライティング能力の向上のための日本語、英語等に係るセッションその他の学習支援
- (3) アカデミックライティングに関する調査及び研究
- (4) センターの活動に関する成果の発表
- (5) 前各号に規定するもののほか、センターの目的達成に必要な事業

(センターの組織)

第4条 センターにセンター長1名を置く。

- 2 センターに副センター長1名を置く。
- 3 センターにコーディネーター若干名を置く。
- 4 センターに助教及び助手若干名を置く。
- 5 センターの運営等に係る重要事項を審議するため、センターにアカデミックライティングセンター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。
- 6 センターの運営等に必要事項を検討するため、運営委員会の下にアカデミックライティングセンター実務委員会(以下「実務委員会」という。)を置く。

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を統括し、センターを代表する。

- 2 センター長は、図書館長をもって充てる。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代理する。

2 前項に規定するもののほか、センター長が、必要があると認める場合は、副センター長にその職務の一部を委任することができる。

3 副センター長は、万代記念図書館分館長をもって充てる。

(コーディネーター)

第7条 コーディネーターは、センター長がアカデミックライティング教育に携わる本学の専任教員(センターの助教及び助手を除く。)の中から、候補者を推薦し、運営委員会の審議を経て、学長が委嘱する。

2 コーディネーターは、センター長及び副センター長を補佐し、その職務は、次のとおりとする。

(1) アカデミックライティング教育に係る情報収集及びその発信に係る支援

(2) アカデミックライティング教育の機会提供に係る支援

(3) アカデミックライティング教育における相談対応に係る支援

(4) アカデミックライティング教育における本学と外部機関との連携及びネットワーク構築に係る支援

(5) アカデミックライティング教育に係る記録及び統計資料の作成に係る支援

(6) 前各号に規定するもののほか、センター長がセンターの目的を達成するために必要があると認めた業務

3 コーディネーターの任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 コーディネーターは、再任されることができる。

(センター助教)

第8条 センターの助教(以下「センター助教」という。)は、学校法人青山学院助教に関する就業規則(以下「助教に関する就業規則」という。)の定めるところにより雇用され、センターに所属する本学の専任教員とする。

2 センター助教は、本学のいずれかの学部又は専門職大学院研究科(以下「学部等」という。)に分属する。

(センター助教の職務)

第9条 助教に関する就業規則第4条第4項の規定によるセンター助教の職務は、同条第1項に規定するものに加えて、次のとおりとする。

(1) 第3条に規定するセンターの事業に係る業務

(2) 前号に規定するもののほか、センター長が必要と認めた業務

(センター助教の資格)

第10条 センター助教は、助教に関する就業規則第5条第1項の規定により、青山学院大学専任教員の任用及び昇任に関する規則(以下「専任教員任用昇任規則」という。)第2条第4項各号のいずれかに該当する者でなければならない。

2 前項に規定するもののほか、助教に関する就業規則第5条第2項の規定によるセンター助教の資格は、アカデミックライティングに係る専門的知識を有する者とする。

(センター助教の雇用手続)

第11条 センター助教の雇用は、次項から第5項までの規定による。

2 センター長は、センター助教の候補者の雇用が適当であると認めたときは、運営委員会の審議を経て、学長に、センター長による推薦状、当該候補者の経歴、業績等が明記された書類その他必要と認められる書類を添えて、その候補者の雇用を発議する。

3 学長は、前項の規定による発議を適当と判断したときは、学部長会にこれを付議する。この場合において、前項の候補者が雇用された場合の分属学部等について、併せて付議する。

4 前項の学部長会において、候補者を雇用することが可とされ、かつ、その分属学部等が決定した場合の当該候補者の雇用の決定は、専任教員任用昇任規則第3条第1項第3号から第6号までに規定する手続を経なければならない。この場合において、同項第3号中「学部長等」とあるのは「分属先の学部等(以下「分属学部等」という。)の長」と、同項第3号及び第4号中「専任教授会」とあるのは「分属学部等の専任教授会」と、同項第5号中「学部長等は、専任教授会」とあるのは「分属学部等の長は、当該分属学部等の専任教授会」とする。

5 専任教員任用昇任規則第3条第1項第4号の審査委員会については、同規則第4条の規定を準用する。この場合において、同条第1項中「専任教授会」とあるのは「分属学部等の専任教授会」と、同条第2項本文中「当該学部等」とあるのは「分属学部等」と、同項ただし書中「当該学部等」とあるのは「当該分属学部等」と、「他学部」とあるのは「分属学部等以外の学部」と、同条第4項中「各学部等」とあるのは「分属学部等」と読み替えるものとする。

(センター助教の雇用契約の契約期間等)

第12条 センター助教の雇用契約の契約期間、待遇、勤務等については、助教に関する就業規則の定めるところによる。

(センター助手)

第13条 センターの助手(以下「センター助手」という。)は、学校法人青山学院助手に関する就業規則(以下「助手に関する就業規則」という。)の定めるところにより雇用され、センターに所属する本学の専任教員とする。

(センター助手の職務)

第14条 助手に関する就業規則第4条第3項の規定によるセンター助手の職務は、同条第1項に規定するものに加えて、次のとおりとする。

- (1) 第3条に規定するセンター事業に係る業務
- (2) 前号に規定するもののほか、センター長が必要と認めた業務

(センター助手の資格)

第15条 センター助手は、助手に関する就業規則第5条第1項の規定により、専任教員任用昇任規則第2条第5項各号のいずれかに該当する者でなければならない。

2 前項に規定するもののほか、助手に関する就業規則第5条第2項の規定によるセンター助手の資格は、アカデミックライティングに係る専門的知識を有する者とする。

(センター助手の雇用手続)

第16条 センター助手の雇用は、次項から第4項までの規定による。

- 2 センター長は、センター助手の候補者の雇用が適当であると認めたときは運営委員会の審議を経て、学長に、センター長による推薦状、当該候補者の経歴、業績等が明記された書類その他必要と認められる書類を添えて、その候補者の雇用を発議する。
- 3 学長は、前項の規定による発議を適当と判断したときは、学部長会にこれを付議する。
- 4 候補者の雇用の決定は、前項の規定により学部長会の審議を経た後、常務委員会及び常務理事会で協議し、理事会の承認を得なければならない。

(センター助手の雇用契約の契約期間等)

第17条 センター助手の雇用契約の契約期間、待遇、勤務等については、助手に関する就業規則の定めるところによる。

(運営委員会の構成)

第18条 運営委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) センター長
  - (2) 副センター長
  - (3) コーディネーター
  - (4) 本学の専任教員の中からセンター長が指名する者 若干名
  - (5) センター助教又はセンター助手の中からセンター長が指名する者
  - (6) 学術情報部長
  - (7) 学術情報部図書課長
- 2 センター長は、必要があると認める場合は、前項各号に規定する委員に加えて、アカデミックライティングに係る専門的知識を有する外部の専門家(以下「外部の専門家」という。)若干名を委員として委嘱することができる。

- 3 第1項第4号及び第5号並びに前項に規定する委員の任期は、1年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 前項の委員は、再任されることができる。
- 5 運営委員会に委員長1名を置き、第1項第1号に規定する委員をもってこれに充てる。

(運営委員会の招集、開催、表決数等)

第19条 運営委員会は、委員長が招集し、議長となる。

- 2 運営委員会は、年2回以上定期的に開催する。ただし、委員長が必要と認めるときは、随時開催することができる。
- 3 運営委員会の開催は、委員の3分の2以上の出席を必要とする。
- 4 運営委員会の議決は、出席した委員の過半数の賛成を必要とする。
- 5 委員長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を列席させ、意見を聴くことができる。

(運営委員会の審議事項)

第20条 運営委員会は、次の事項を審議する。

- (1) センターの運営等に係る基本方針に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) コーディネーターの委嘱、任期等に関すること。
- (4) センター助教及びセンター助手の人事に関すること。
- (5) 前各号に規定するもののほか、実務委員会から付議されたこと。

(実務委員会の構成及び開催)

第21条 実務委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) センター長
  - (2) 副センター長
  - (3) コーディネーター
  - (4) センター助教又はセンター助手の中からセンター長が指名する者
  - (5) 学術情報部図書課長
  - (6) 相模原事務部学術情報課長
  - (7) 本学の専任事務職員(総合職)の中からセンター長が指名する者 若干名
- 2 センター長は、必要があると認める場合は、前項各号に規定する委員に加えて、外部の専門家若干名を委員として委嘱することができる。
  - 3 第1項第4号及び第7号並びに前項に規定する委員の任期は、1年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

- 4 前項の委員は、再任されることができる。
- 5 実務委員会は、センター長が必要に応じて招集し、議長となる。
- 6 センター長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を列席させ、意見を聴くことができる。

(実務委員会の業務)

第22条 実務委員会は、次の事項について協議し、その執行に当たる。

- (1) センターの事業計画等に関すること。
  - (2) センターが行うアカデミックライティング教育に係る企画、立案及び実施に関すること。
  - (3) センターの予算の執行に関すること。
  - (4) 前3号に規定するもののほか、センターの運営等に必要なこと。
- 2 センター長は、必要があると認める場合は、前項の規定による協議の結果を、運営委員会に報告する。

(所管)

第23条 この規則は、学術情報部図書課が所管する。

- 2 センターの運営等に係る事務は、学術情報部図書課及び相模原事務部学術情報課が所管する。

(改廃手続)

第24条 この規則の改廃は、運営委員会、図書館委員会及び学部長会の意見を聴いた後、常務委員会で協議し、理事会の承認を得て、学長がこれを行う。

附 則

この規則は、2017年5月26日から施行する。

附 則(2018年6月18日)

この規則は、2018年6月19日から施行し、2018年4月1日から適用する。

附 則(2019年3月28日)

この規則は、2019年4月1日から施行する。

附 則(2021年1月28日)

この規則は、2021年4月1日から施行する。

アカデミックライティングセンター (2024)

一年次報告書

2026年3月発行

発行者 青山学院大学アカデミックライティングセンター

発行所 青山学院大学図書館

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

電話 03-3499-1402